



1. 浦河町と日高山脈襟裳十勝国立公園

浦河町は、北海道日高地方の南部に位置し、江戸時代から交易地として栄え、明治以降も日高の行政・経済・文化の中心地として発展してきた。

町の大部分が「神威岳」「楽古岳」などを含む日高山脈とその前山が占めている。海洋性気候の影響から夏は涼しく、冬は温暖であり、豊かで住みよい自然環境に恵まれている。

浦河町は、令和4年9月にゼロカーボンシティを表明。



競走馬育成施設と日高山脈

2. ゼロカーボンパークに向けた浦河町と地域の取組

① 自然資源の活用

木質バイオマスエネルギーセンターを設置。センター方式によるバイオマスボイラーを導入し、公共施設への効率的な熱供給を行うとともに、化石燃料から木質チップへの転換によってCO2発生量の大幅な抑制が実現している。木質チップは地元森林組合が生産する森林整備由来の未利用材を使用している。

日高南部の山々でも風格のある神威岳(1,601m)、山頂から360度を見渡せる楽古岳(1,472m)は、日高山脈の魅力を味わうことができる人気の登山コースとなっている。拠点となる神威山荘や楽古山荘では、暖房として薪ストーブを採用している。



浦河町木質バイオマス
エネルギーセンター



楽古山荘



2. ゼロカーボンパークに向けた浦河町と地域の取組

②J-クレジット制度の活用

環境省、経済産業省、農林水産省による認証を受け、森林によるCO₂吸収量を「浦河町オフセット・クレジット」として制度化。販売収益を豊かな自然環境を守り育むために行う、適切な森林管理に活用している。

③DXによるゼロカーボンの推進

令和7年1月に東日本電信電話(株)北海道南支店と社会問題解決に向けた連携協定を締結。CO₂排出量抑制のため、PPAによる太陽光発電設備導入、再生エネルギー技術の活用などゼロカーボンの推進に向けて協議を進めている。

④CO₂を排出しない自然体験プログラムの推進

馬産地としての特性を活かし、乗馬など自動車を使用しないアクティビティを提供。ワーケーションやテレワークによる滞在を推進している。



脱炭素に向けた民間事業者との連携推進



乗馬体験プログラム

3. 環境省における対応

ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等事業費等の既存予算を活用して支援する他、北海道地方環境事務所が連携をとりながら伴走支援を行い、ゼロカーボンパークの取組を後押し。